



▼ 人文科学研究院

よし はら まさ こ  
**吉原 雅子**

准教授



Profile

栃木県立宇都宮女子高等学校、お茶の水女子大学文教育学部哲学科卒業。同大学人間文化研究科比較文化学専攻修了、博士(人文科学)。お茶の水女子大学、昭和女子大学、埼玉県立大学非常勤講師を経て現職。

わたしの研究

緻密な議論で「哲学の問題」を扱う

哲学の問題とは、例えば「(机を前にして)ここに机が本当にあるのか」を問うようなことです。人々が思考過程で陥りやすいあいまいさから出てくるおかしい結論、どこか奇妙な考え方が哲学の問題になります。哲学の問題を解くのに、特別なスキルはいりません。新しい知識を入れなくても、新しい事実を発見しなくてもいい。ただ、言葉づかいを明晰にして、緻密に議論を組み立て直し、論証の飛躍がないかを見つける作業です。できるだけ明晰に、できるだけ緻密に整理する。そのことが問題解決につながるような問題を扱うのが哲学です。中でも、言語哲学といわれる分野で、固有名の指示の問題や「～すべき」「いい」「悪い」といった道徳に関わる言葉の問題を考えています。

キャリアパス

人生を決めた授業

「神様がラーメン10杯食べろと言ったら、食べるべきだと思うか」「僕はまだ100メートルを10秒で走ったことはないが、それはまだ実力を出し切れてないからで、本当はできるんだと言われたらどう答えるか」—大学に入学した後の4月、一般教養の「哲学」の授業に出たら、先生の話していることが、私が普段考えていることとすごく似ていた。自分の日常の中に哲学というものがあつたことに気がつき、その授業がきっかけで、哲学を専攻することにしました。後に指導教員となる恩師との出会い、私の人生を決めた授業です。やらなければならないことと、やっていて楽しいことが一致するのは、哲学が初めてだった。この一致を大切にしなければと思うと、大学院への進学は自然な流れでした。

これが魅力☆

頭の中のパズルを解く

哲学の問題はパズルみたいなものです。自分の頭の中にあるパズルを解く作業、すなわち哲学をすること自体が楽しい。哲学を勉強したことの効果という点からいえば、明晰に、言葉を間違えずに、議論を組み立てる訓練をするので、それはどこにいても通用するスキルになります。

お気に入りの場所

日帰りで  
いろんなところに  
出かけます

お気に入りの場所といえばイルミネーション時期のハウステンボスかな。春は志賀島も楽しいですね。いつかレンタサイクルを借りて一周してみたいと思っています。

大切なことば  
～マジック・ワード～

君を誇りに思う

信頼している恩師から言われた一言です。がんばって論文を書くのですが、ずっと反論ばかりされて、へこんだりもしていました。でもがんばってがんばってがんばった先に、「この議論はとてもおもしろい、僕は君を誇りに思います」と言ってくれた。すごく励みになった言葉です。この言葉がなかったら、研究を続けようとは思っていなかったかもしれません。

1日の過ごし方

休日は早起き

平日は、朝8時頃ゆっくり起きて、家のことを済ませてから大学に出てきます。こまごまとした仕事や授業をして、自分の研究はやったりやらなかったり...ですが、がんばった日はごほうび(p.35参照)に飲みに行く。シンプルな生活です。今は、飼っている猫が「よく食べる」という症状を呈する病気にかかっている、2時間おきに餌をねだって起こされるので、まとまった睡眠がとれていないのが悩みです。休みの日は早く起きて、午前中から動きます。趣味のために遠出をしたり、東京での研究会に参加したり。2万歩くらい歩きます。

凹んでも  
これで克服

時間が経つのに  
まかせる  
話し相手も大事

時間が経つのにまかせるくらいでしょうか。ひとりで福岡に赴任してきたときには、誰か話す相手、愚痴を言ったり、泣き言を言ったりできる人がいることがすごく重要だと思いました。

わたしの  
おとも

消せるボールペン  
0.4mmのこだわり

論文を読みながらメモを書き込む。でも、しばらくすると消したくなるメモもある。そんなときには、この消せるボールペンがベストです。もうひとつ好きなのは、芯の太さが0.4mmであること。昔から、書き込むときにベストなのが0.4mmでした。ところが昨日新しいものを買に行ったら、0.38mmのものしかない。この違いがどうでもか楽しみです。

